

第6回審議会における主な意見等

1. 地域センターの区域に必要な学校数の目安をその区域の児童生徒の住民基本台帳の数から求めているが、実際には通学区域が他の地域センターに及んでいる場合が多く、1つの地域センターの区域のみを捉えるには無理がある。その解決のための方策はどのようなことが考えられるか。
2. 地域センターの組み合わせや中学校区域の検討などが考えられるが、今日は、地域センターに絞って議論する。
3. 実際の学校数と資料6の目安となる学校数とが乖離しているなどの特徴的な地域から議論を行なうことによって、区が共通に抱えている問題点、地域性に由来する課題等の整理が進むのではないか。
4. 地域の課題については、審議会委員では微妙な機微が分からないところが多い。
5. 審議会では、コンセンサスが得られたことをきちんと答申に盛り込むことでよいのではないか。区ではそのことを受けて適正配置計画を策定し、地域を交えた会議で地域性に由来する問題を解決していくことになると思う。
6. 資料6の作り方が28年度の定点観測で、それ以降児童生徒数が増加するのか、減少するのか、分からないところがある。前回の審議会資料で地域センターごとに22年度と28年度の児童生徒数の比較があったが、こうした傾向も参考として目安を考慮すべきではないか。そのうえで、小学校、中学校も余剰となっている仲宿地域センターや高島平地域センターの区域を議論してはどうか。
7. 適正配置の問題の所在を明らかにし、共通認識を得ることが必要になる。そのためにモデルケースで検証していくのだが、まずは学校が余剰の地域よりも学校が無かったり、不足しているとのデータが出たりした地域の方が問題は大きいと思われるので、先に議論していくことも考えられる。
8. 国は、1学級あたりの児童生徒数を35人に、小学1・2年生に至っては30人にするよう計画案を作成していることを考えると、小規模の問題をどうするかと議論するよりも、学校が不足する地域への対応、大規模校への対応を優先に考えていったほうが良い。
9. 通学区域のことを考えると地域センターの区域ごとに「地域」として集約することが難しいことが資料6で分かった。
徳丸・下赤塚・成増の地域センターの区域は資料6からも地図の上からも明らかに学校が不足している。一方、高島平の地区を見ると資料6のデータからは、学校が余剰と出ている。実際にはこの不足している地域を高島平でカバーしているので、通学区域の早急な見直しが必要と考えると同時に、単体の地域センターでなく隣近所の地域

センターを見ていくと解決策がでてくるのではないかな。

10. 隣接地域との連携という話が出たが、青健事業等の運営に大きな支障がくるのではないかなと思っている。青少年健全育成活動は、個々の地域センターを単位としているが、青少年委員の活動はブロック制を採っていて、例えば第一ブロックが板橋、仲宿、熊野の地域センター区域を担当している。こうしたことを考慮して、地域の組み合わせを考えなければならないという課題もでてくる。
11. 学校が足りないに見える地域でも、その地域によって事情は異なってくる。例えば、赤塚、成増地域センター区域のように明らかに足りないという地域と、富士見地域センター区域のように、実際にその区域の小学校に通っている子供たちの数と住基上の数に物すごい開きのある地域がある。そういう事情を抱えているところと、明らかに足りない地域というのは、分けて考えていかなければならない。
12. 中学校の場合は、地域センター区域に設置されていない地域が4カ所あるが、例えば、前野地域センターの場合は、隣接の地域センター区域に僅かに入った場所に4校が配置されているというような状況だ。そういうことを考えざるを得ない。配置の問題が小学校と随分違うので、小中学校を一緒に論議するのは控えた方よい。
13. データ上小学校が不足している地域から検討を行う。まずは、富士見地域センターの区域をみると、隣接する仲宿地域センター区域の中根橋小学校を考慮に入れると全然違う数字になる。実際には足りるはずだ。だから、今度は富士見と、例えば仲宿地域センターを1つの地域として見る、そういった資料を出してほしい。こうした事例は他にもあるのではないかな。
14. 仮に、富士見と仲宿地域センターを1つの地域として見て、学校数に不足がないとなった場合、板八小の統廃合という議論になることもありうる。そうすると、富士見地域センター区域内に学校が1つもなくなってしまう。そういう意味では、ここが一番危機感を持って議論する地域ではないかなと思っている。
15. 次に、舟渡地域センターの区域は、大規模集合住宅の急増で子どもたちの数も増えている状況だ。北区の学校との関係も見ていく必要がある。次回にはその資料も出してほしい。
16. 下赤塚地域センターの区域は、徳丸、成増地域センターの区域を含めて、赤塚新町を除いてどこの小学校もいっぱい、多分、学区域を変更しても何も解決できないと思われる。区を越えてどこかへ行っているのか。隣接の学校へ行っているのか。そうしたことが分かる資料を出してほしい。
17. 成増、下赤塚、徳丸を1つのグループとした場合、それに高島平を加えた場合のたたき台を作してほしい。
18. 単体の地域センターの区域の中だけで適正配置を考えるのは難しいと分かったので、今回の審議会では小委員会でもたいてもらった組み合わせについて、考察することとする。